

平成 29 年度 第 1 回
釜石市介護保険運営協議会 会議録

- 1 日 時 平成 29 年 10 月 31 日(月) 午後 6 時 30 分～8 時 21 分
- 2 場 所 釜石市保健福祉センター 9 階 講義室
- 3 出席委員 11 名
小泉嘉明委員(会長)、清野信雄委員(副会長)、内田安子委員、久喜眞委員、栗澤稔委員、佐々木てる子委員、佐野和子委員、澤田政男委員、鈴木勝委員、古川明良委員、山口和子委員(内田委員以下五十音順)
- 4 欠席委員 1 名
三浦一泰委員
- 5 事務局出席者 4 名
保健福祉部長 千葉敬、高齢介護福祉課長 紺田和枝、同課主幹 板澤永雄、同課長補佐 佐々木義友
- 6 その他(助言者) 1 名
高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画作成委託業者
ケイカラボ株式会社(盛岡市本宮七丁目 7-10) 担当者 村上勝俊氏
※傍聴者なし
- 7 協議事項
 - (1)平成 28 年度釜石市介護保険の概況について
 - (2)平成 28 年度釜石市介護保険特別会計の決算状況について
 - (3)第 6 期介護保険事業計画の検証、評価について
 - (4)第 7 期介護保険事業計画の策定状況等について
 - (5)介護予防・日常生活支援総合事業所の休止について
 - (6)その他
- 8 開催経過
 - 小泉会長が議長となり、議事を進行した。
- 9 協議結果
 - (1)平成 28 年度釜石市介護保険の概況について
 - (2)平成 28 年度釜石市介護保険特別会計の決算状況について
(一括審議)
 - 資料に基づき、事務局が説明した。
 - 事務局案のとおり、承認された。
 - (3)第 6 期介護保険事業計画の検証、評価について
 - (4)第 7 期介護保険事業計画の策定状況等について
(一括審議)
 - 資料に基づき、事務局が説明した。
 - 事務局案のとおり、承認された。

(5) 介護予防・日常生活支援総合事業所の休止について

- 資料に基づき、事務局が説明した。
- 事務局案のとおり、承認された。

(6) その他

- 主に介護人材確保について、委員間で議論がなされた。

主な発言は以下のとおり

事務局：「1)平成28年度釜石市介護保険の概況について」および「2)平成28年度釜石市介護保険特別会計の決算状況について」を説明。

小泉会長：ただいまの事務局からのご説明についてご質問、ご意見はありませんでしょうか。歳入と歳出のバランスは良いと思いますし、サービスが行き届いているかどうかについては、市の感覚でないといけないと思います。それなりには進んできているのではないかと思います。施設入所の待機者については、これまでに思っていたよりも、ずっと減ってきたということは事実です。方向的にはいかがでしょうか、国は「在宅だ、在宅だ」といっていますが、在宅を支えている家族の力、介護力が落ちているということ、釜石市のような都市では震災以降大きく落ちました。家族の介護力が落ちれば在宅が少なくなるのは当然です。そういう意味でも国が望む方向とは違う方向に進んでいますし、その辺を見据えて釜石市の方向性を考えていかなければなりません。

古川委員：(1)の「介護予防に注力し、増加傾向の鈍化を図っていく方針を堅持し、一層有効な施策の策定、運用に努める」とありますが、有効な施策の策定とは具体的にどのようなことがあるのかと考えつつ、また、釜石市にある様々な課題に対してもどのような対策を考えながらこの表現を使っているのかが気になりました。医療と介護の連携や、地域包括ケアシステムというものも地域ごとにやり方が異なっている状況であることがわかっています。それを前提としたときに釜石市の介護施設だとか在宅サービス、民間企業のサービスという動きの部分とOKはまゆりネットを含めた医療の部分のバランス調整を行政としてどのように考えており、その上で具体的などころに入ろうとしているのかについて質問させてください。

小泉会長：介護予防をしては手遅れだということは誰でもわかっている事なので、その前の段階が大事です。ただ、ここは介護の運営協議会なので。結局はなる前のところに力をいれましょうということだし、全体で見えていくとなかなか難しいことになると思います。恐らく行政でも把握できていないですし、状況から見ると高齢介護福祉課で上手くやっていくということも難しいのではないのでしょうか。介護と医療が一緒になって効率的にやっていかないと又莫大な金がかかるわけです。例えば認定率20%を10%にすれば元気な方々が多いということが言えます。90%の高齢者が元気だということになるとすごい町だということ言えます。そうすることができるかということ、現段階では全国一律で同じようなことをやって、同じく皆で介護が必要な状態になることを待っているような状況です。つまり、他と一緒にする必要はなく、いいことをしているのであれば、それをどのような形で進めるかを行政中心に考えていくことができればと思います。

古川委員：夕張の事例ですが、あれだけの行政サービスが撤退して無くなったら高齢者が元気になったという報告があります。手をかけることだけが決して良いことではないのだという検証ができているといった話を聞くと、どうなのかなという思いがあります。予防というと必ず事業化してお金をかけて取り組みますが、

それについての疑問があり、先ほどのような質問を投げかけてみました。

小 泉 会 長 : 過度な福祉は人を殺すと言われていています。自分のことは自分でしなければならないというのは事実です。ただ、それは丈夫でないとできませんよね。ですから若い時からの積み重ねによって、介護認定率が低くなれば最高だと思えます。恐らく 37.5%の高齢化率の町で認定率が 20%を維持できていることは頑張っていると思えますが、ただもう少し頑張りたいといった部分はあります。行政はその辺を頭の中に入れて計画なり事業を考えていってほしいです。もちろん寝たきりの状態になれば施設を利用することになりますが、現在の割合を見ると全国と比べても、この状態のままいってくれば良いのではないかと思います。

栗 澤 委 員 : 資料を見ると約 13,000 人が高齢者ですが、老人クラブの会員は 1,300 人程度です。老人クラブに入っていない人たちの情報が我々には全く入ってきません。わりと「老人クラブ」という言葉を嫌って入会しない方も多いますが、我々はできるだけ会員を増やそうと頑張っています。ただ、震災以降において住まいがはっきりしていないというのが現状です。一時、仮設に落ちてきた感はありましたが、また動き出してきました。たまたま来年は釜石で老人クラブ大会をやることが決まっています。今が一番肝心なので健康な高齢者に老人クラブに参加していただきたいですし、会員を増やしていけば健康な高齢者も増えていくというように考えています。

小 泉 会 長 : 老人クラブというと、なんとなく皆がイメージを持っていますが、栗澤委員は違うイメージを持っています。ただ、それが普通なことになればすごい世界になると思います。

事 務 局 : 「3)第6期介護保険事業計画の検証、評価について」および「4)第7期介護保険事業計画の策定状況等について」を説明。

小 泉 会 長 : 総花的で、これらのことを全てやるとなったらすごい話です。計画なので総花的なのですが、その中でどこに重点を置きどのようなことができるのか考えながらやっていかないと、何十年たってもできないとなっては困ります。書いてあることは全くその通りですが、アンケート調査をやってみると課題などは見えてきますよね。ですから、そのような所をある程度中心にして進めていく。それから高齢者のことをいっていますが、人口推計の結果を見ると子どもがとても少ないですね。本当にこれから大丈夫かと思えます。町に人がいる、子どもがいるということをやっていると大変ですよね。高齢者の部分は皆で取り組んでいるので何とかかなと思います。そちらの方が心配してしまいます。全体的には人口構成の部分が一番の問題になるような気がします。

古 川 委 員 : 介護保険になる前の措置時代の高齢者福祉のあり方というのは、行政がしっかりと地域の事業者と連携をとっていました。介護保険になったとたん事業者側に出してしまってコントロールが効いていない、連携プレーができない状態になっているという話が全国の関係者と話していても話題に上がってきています。これは国も気にしており、相談窓口がしっかりしていて、そこが行政と連携がとれていれば良いのです。措置時代は困れば福祉事務所に行けば、色々なサービスにつなげてもらえました。しかし、現在はどうかというとなかなか難しい状態であると見えます。この話は釜石にとっても大きなポイントであると考えます。そう考えた場合、行政の立ち位置、役割が課題です。直営でやって良いものと、委託してコントロールしていく部分とを考えていく必要があるかと思えます。この部分については、冒頭で投げかけておきます。

久 喜 委 員 : 総論は総論としてこのような形だと思いますが、これから各論を作っていくときに、何をやって何をやらないかという取捨選択をこれまで以上にシビアにやっていかないといけないと思います。アンケートではヘルパーが足りないと言いますが、実際には隣の大槌町ではヘルパー事業所が無くなりましたし、釜

石もヘルパーが足りないと言われていました。また、デイサービスについても第7期で介護報酬を下げられた場合に、そう遠くない将来、併設のデイは止めるという話がでてきています。そのような中で、国とか県は市に丸投げ状態ですので、市は現場の状態を見て限られた財源の中で何をどのようにやっていくかを真剣に考えていく必要があると思います。子どもの年間出生数200人ということになると介護だけでなく様々な事業が立ちいくのか心配です。第7期が一番肝心でここで取捨選択を間違えると大変です。非常に大切な時期だと思しますので、大変でしょうが頑張ってくださいと思います。

小 泉 会 長 : 情報分析をきちんと行い、我々が進むべき独自のことをやっていかなければいけない。人口がどんどん減っていく中で、釜石市に残って生きていくというための施策をしっかりと考えないといけないと思います。みんなで同じ方向を見てやっていくことができればと思います。また、計画についてはこれまで通りに作っていくことで良いと思いますが、基本的に何をしっかりとやっていくのかを分かるようにしていただければと思います。

古 川 委 員 : 地域包括ケアシステムの肝は、行政がどこに責任を持って事業所をコントロールできるかだと思います。委託を含めて出しっぱなしではよくありませんので、行政はしっかりと全体をコントロールしなければいけません。ですので、基本的には直営はしない方がよいのではないかと個人的には考えており、地域包括支援センターも同様で、事業の継続性と相談窓口としての連携性を考えた場合は、民間事業者に位置づけさせて、それに対して連携、コントロールすべきだと思います。これは、措置時代の良い部分を残すという意味で、もう一度確認をしていただきたいです。

久 喜 委 員 : 生活応援センターと地域包括支援センターの再編から考えないといけないのではないのでしょうか。限られた人材をどのように使っていくかを、委託、直営を含めてもう一度整理し直さないと共倒れすると思います。

古 川 委 員 : 今後、団塊の世代からの相談が増えてくると大変になってくるのは目に見えています。

小 泉 会 長 : 一生懸命に汗をかかないといけませんが、各応援センターで汗をかいてもしょうがない。応援センターについては、外部に委託するくらいでちょうど良いものだと思います。取り組み自体は良いのですが、地域に保健師を含め職員を張り付けさせても本体の人材がいないのでは、意味がありません。本体がしっかりと地域との共通理解を持ちながら取り組みを進めることで、今以上に進めることができるのではないのでしょうか。今では民間の力もついてきていますから、そこを利用していくことが良いと思います。それでは、次に進めたいと思います。「5)介護予防・日常生活支援総合事業所の休止について」事務局から説明をお願いします。

事 務 局 : 「5)介護予防・日常生活支援総合事業所の休止について」を説明。

小 泉 会 長 : 報告事項ということで、次に進みます。これまでのところご承認いただけますでしょうか。

全 委 員 : はい。

小 泉 会 長 : それでは「6)その他」について、何かありませんでしょうか。

古 川 委 員 : 介護人材確保については行政に色々な施策を展開していただかないと、サービスを出したくても出せなくなる状況が起こると事業を縮小するしかなくなってきました。現在、最悪のスパイラルになりつつありますので、そのようなにならないように是非、下支えしていただければと思います。あらゆる取り組みを考えながら、下支えする町だという体制ができていないと良い経済活動になっていかないのではないのでしょうか。しっかりと人材確保に取り組み、数年後事業所が無くなってしまっていたとにならないようにしていただければと思います。釜石市の場合は、すべてが先駆けていますので事業目標数値などを立てながら強弱

をつけて何が重要かということを抑えて欲しいです。

- 久喜委員：介護人材の確保ということで、市内や大槌町の高校と情報交換をして、医療福祉の就職希望者が何人いるといったことを踏まえないといけませんし、私たちが掴んでいる情報によると高校2年生で福祉の希望者は1名のみ、1年生では数名いるということですが非常に少ないため、この部分をどのようにしていくか考えていく必要があるかと思います。洋野町の施設では、人材不足からすでに外国人を採用していると聞いています。過去十万人近くいた釜石市といったプライドは捨てて人口3万人程度の町だという自覚を持って取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。
- 小泉会長：介護保険が始まってから方向的には間違っていないと思いますが、市長の感覚として困っている人がたくさんいれば全てを助けましょと。それはいいのですが、全部やるということは良くありません。抑えるところは抑えながら、どうやって次の世代にバトンタッチするかを考えることが重要です。今はいいところまで来ていますが、頑張っても次の世代につなげなければ最悪です。そういうことを含めて、先ほどお話しした事業者との密な連絡とか、行政に先頭に立って頑張って進めていただくことで、やりやすくなるのかもしれない。
- 古川委員：行政も仕事が多すぎますので、司令塔の役になった方がいいと思います。後は、各事業所との連携になりますし、専門職に任せるといったやりかたで役割分担できるように切り替えていかないと行政ももたないと思います。
- 久喜委員：あれやって、これやってますとカッコつけるのではなく、うちはこれを地道にやっていますという方が生き残るのではないかと思っています。
- 小泉会長：これで終わりますので、事務局にお返しします。